

登録コード	MA760800	開講年度	2026			
授業科目名	実践理学療法学特論			担当教員	百瀬 公人 他	
英文授業名	Special Lectures in Practical Physical Therapy			副担当	横川 吉晴・青木 薫・北川 孝	
単位数	2	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	金曜・6時限 金曜・7時限	対象専攻 / 学年
講義室	保健学科 1 1 1 講義室		授業形態	講義	授業科目区分	選択科目
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素					
	MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学)					
	【研究科共通】医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。				研究者の倫理に基づき研究を行うことができる。	
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。				現在の医療の問題点を発見し、研究に落とし込み実施することができる。	
	【保健学】保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。				学際的な観点で問題を解決するための研究を実施できる。	
(2)授業の概要	解剖学、生理学、病理学などの基礎医学を理解した上で、個々の疾患に実践できるより高度な理学療法の理論や体系を探求する。 その手法は、神経系・筋骨格系の組織解剖学・分子生物学・生化学・生理学・運動力学・画像診断学・疫学・統計学・教育学など多岐にわたる。 これらの科学的知識を基に、理学療法の理論的背景を掘り下げる。 本授業は担当教員の理学療法における臨床の実務経験及び研究者としての実務経験を活かして講義を行います。					
(3)達成目標（一般学習目標G I O）	1．臨床場面における学生教育、新人教育の立場から理学療法を理解する。 2．骨軟部腫瘍のリハビリテーションを通して理学療法を理解する。 3．統計学を通して現在行われている理学療法を理解する。 4．画像診断を用いて現在行われている理学療法を理解する。 以上の学習を通して、情報収集能力・分析能力・情報発信能力を習得する。					
(4)達成目標（個別行動目標S B O s）	1．理学療法の学生教育、新人教育を説明できる。 2．骨軟部腫瘍を説明できる。 3．骨軟部腫瘍のリハビリテーションを説明できる。 4．EZRを利用して統計解析を行う事ができる。 5．超音波画像診断装置を用いた理学療法を説明できる。					
(5)授業計画	第1回（4月10日）オリエンテーション・理学療法の学生実習教育（百瀬） 第2回（4月10日）理学療法の新人教育（百瀬） 第3回（4月17日）カルテを用いた臨床推論（百瀬） 第4回（4月17日）学生実習・新人教育からみた理学療法（百瀬）レポート・口頭試問 第5回（4月24日）骨軟部腫瘍の診断、治療（青木） 第6回（4月24日）骨軟部腫瘍のリハビリテーション（青木） 第7回（5月 8日）転移性骨腫瘍の臨床（青木） 第8回（5月 8日）骨軟部腫瘍のリハビリテーション(演習)（青木）レポート・口頭試問 第9回（5月15日）RStudio・EZRを用いた統計演習1（横川） 第10回（5月15日）RStudio・EZRを用いた統計演習2（横川） 第11回（5月22日）RStudio・EZRを用いた統計演習3（横川） 第12回（5月22日）RStudio・EZRを用いた統計演習4（横川）レポート・口頭試問 第13回（5月29日）超音波画像の理学療法への応用1（膝関節）（北川） 第14回（5月29日）超音波画像の理学療法への応用2（肩関節）（北川） 第15回（6月 5日）超音波画像の理学療法への応用3（足関節）（北川）レポート・口頭試問・アンケート					
(6)授業の進め方	講義を中心にしてい行い、その内容に関連したレポートを課す。また各单元において口頭試問を行う。新型コロナウイルス感染状況によってはWEBにて実施します。詳細については、eALPSにおける各授業のアナウンスを参照してください。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	授業計画や授業で配布する資料等で、予習しておくべき内容を示してあるので、教科書や参考書で事前学習する。講義中の口頭試問に医療専門職としての立場で発言できるように準備する。また、授業中に、これまでの授業で学習した内容について質問をするので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように事後学習する。					
(8)成績評価の方法	各单元で行う口頭試問50点、レポート50点 60点以下を不合格とする					
(9)成績評価の基準	口頭試問 授業で解説した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある（可）」、応用問題が解ければ「やや上にある（良）」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」、解説した内容より難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」。 レポート (i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握					

(9)成績評価の基準	できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。
(10)学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	受講希望者は，あらかじめ担当教員（百瀬）にメールで連絡すること。 また，授業の各教員の日程について，随時変更することがあるので，下記のメールで情報を得ること。 質問相談などについてはメールで日程を調整すること。 百瀬：kmomose@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎4階百瀬研究室 横川：fhakuba@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎4階横川研究室 青木：kin29men@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎1階青木研究室 北川：tkitagawa@shinshu-u.ac.jp 保健学科南校舎4階北川研究室
【テキスト，教材，参考書】	授業中に紹介する